

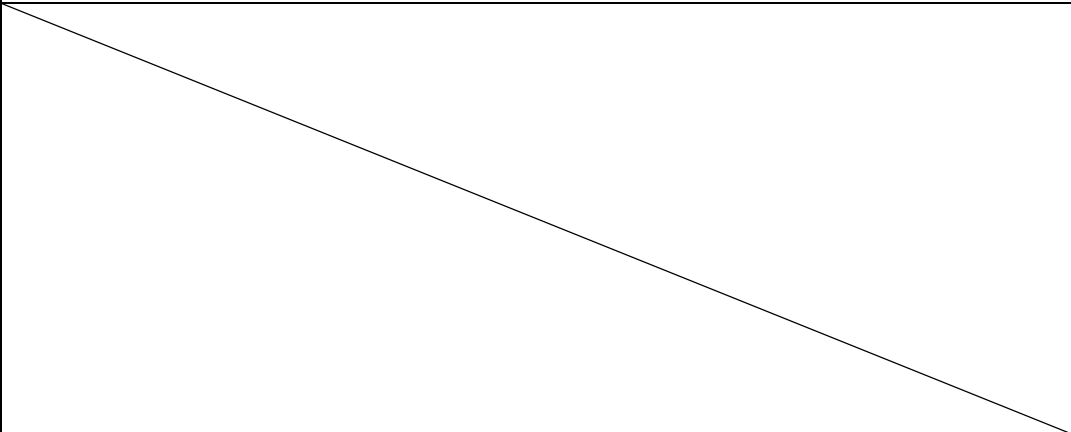
【授業改善推進プラン 2年 国語】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字への学習意欲が高い。 ○問題文を正確に読み取りできない児童がいる。 ○文章中から読み取る力が不十分である。 ○聞いたり話したりする力には個人差がある。 ○音読学習への意欲が高い。 ○文章のまとまりや構造を理解はしているが、文章にして書くと段落を意識して書けない児童がいる。 ○漢字が身に付かない児童もいる。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読み取る力を育むため、読書に親しんだり、文章を正確に読み取る練習をしたりする必要がある。 ○既習の言葉を正しく使えるように児童が活用する場面の設定が不十分である。 ○自分の気持ちを分かりやすく伝えられるように表現力育成に向けた手だてが必要になる。 ○原稿用紙に自分の考えや気持ちを書く練習をし、段落を意識して書く活動をする必要がある。 ○漢字を定着させるために反復練習をさせる必要がある。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の小テストを繰り返し実施し、定着を図る。 ○他教科で学習したことを国語と関連させて文章で表す活動をする。 ○ペアトークを中心に、気持ちを伝えたり聞いたりする場面を設定する。 ○ICTを活用して物語の情景を共有し、読み取りを丁寧に行う。 ○ICTを活用して、学級での物語の読み取りを可視化していく。 ○読書活動や音読活動を通して、文章理解を深めさせる。
<p>読み解く力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読書活動の推進を継続していく。 ○文章の中での主語・述語をおさえる。 ○言葉の意味を確認する時間を設ける。 ○聞かれていることを確認する場を設ける。 ○「その」「あの」などが何を指しているのかを確認する。

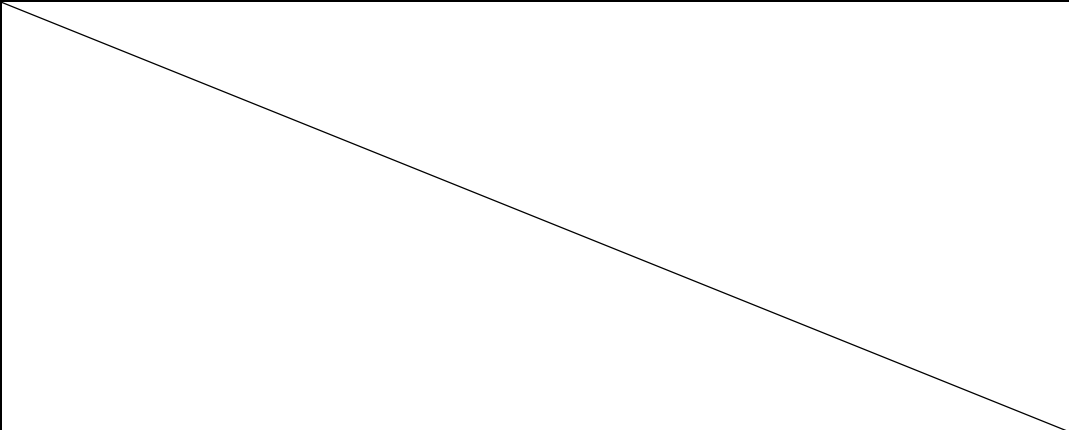
【授業改善推進プラン 2年 算数】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○真面目に意欲的に取り組む子が多い。 ○繰り上がりのある足し算の筆算は定着しつつあるが、繰り下がりのある引き算の筆算で、下から上を引くなどの間違いが見られる。 ○自分の考えをノートに書ける子が多い。説明する力については個人差がある。 ○計算時に指を使う児童もいるなど、個人差が見られる。 ○長さ、水のかさ、時刻と時間の学習では単位換算が不十分な児童が多い。 ○問題の意味が理解できず答えを間違える児童がいる。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の学習に対して習熟度に差があるので、そのような実態に合わせて習熟度別学習を進めていく必要がある。 ○学び合いの質を高める手だてが不十分である。 ○実物を用いて測る活動に取り組ませるなど、実感を伴った学習を更に取り入れる必要がある。 ○振り返りを着実にを行い、ノートに書く時間を確保する必要がある。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各時間に前時の振り返りを取り入れ、既習事項の定着を図る。 ○問題文の内容を的確に理解させるために、実物やおはじきなどで提示したり、子どもに扱わせたり、ICT機器を活用したりするなどの工夫を更にする。 ○解き方が分からない子どもを適宜集め、問題を解く手順を考えさせるなど、具体的なアドバイスをおくる。 ○子どもが解決法を説明する際、必要に応じて指導者が補助をする。また、価値のある発言や質問を取り上げ、よい点を具体的に示す。 ○ICT機器を活用し、考え方の共有を図り、学び合いを深める。 ○時間を5分確保する・視点を明確に示すなどして、振り返りをより充実させる。
<p>読み解く力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文章題の内容を確実に理解させるために、「わかっていること」「聞かれていること」に線を引かせ全体で確認する。また、必要に応じて図や絵・おはじきなどを利用し、文章題理解の一助とする。 ○解き方を発表する際、初めに子どもの解き方を黒板に記す。そして、どのように解決したのか考える時間を設け、図や表・式などから解き方を読み取る力を伸ばす。 ○定義となる語彙が新たに登場した際、ノートに記載させ全員で読ませたり、当てはまる具体例を考えさせたりすることにより、新しい語彙を確実に定着させる。

【授業改善推進プラン 2年 音楽】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に授業に参加できている児童が多い。 ○リズム遊びなどに参加することが難しい児童もいる。 ○鍵盤ハーモニカで正しい音を出すことができる児童が多い。 ○鍵盤ハーモニカを正しい指づかいで演奏できる児童もいるが、できない児童も多い。 ○2拍子・3拍子の違いや音の高さの違いを判断できる児童が多い。 ○声を出すことを恥ずかしがる児童が多い。 ○正しい姿勢をとることができず、動いてしまう子が多い。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で制限がある中での、鍵盤ハーモニカや歌唱の指導方法を検討する必要がある。 ○技能が低い児童やはずかしがる児童が多いため、練習時間を十分に設ける必要がある。 ○個々の技能に差があるため、個に応じて指導する必要がある。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童同士の間隔を空け、換気を十分に行いながら、区のガイドラインに沿っての指導を引き続き行う。 ○正しい指づかいで演奏できない児童のため、指を動かすトレーニングをする機会を設定する。 ○演奏練習の時間を設定し、個に応じて支援をする。 ○指使いや正しい姿勢を電子黒板で移したり、タブレットで自身を録画したりすることで、交流や振り返りを行い、基礎・基本の定着を図る。
<p>読み解く力の育成</p>	

【授業改善推進プラン 2年 図工】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○どの作品作りにも興味関心をもち、前向きに取り組むことができる。 ○多くの児童が作業に集中して取り組むことができる。 ○多くの児童が、絵の具やクレパスなどの用具を正しく使い、作品作りに励んでいる。 ○発想力や工夫に課題がある。（見本や友だちの真似をするだけで終わってしまうこと多々いる。）
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○作品を飾れる場所が少ない。 ○教材の提示仕方や説明方法の工夫に改善の余地がある。 ○教室だけでは場所が狭くなってしまいう製作もあるため、児童がのびのびと作品作りができるような環境設定を今後も工夫していく必要がある。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞できる場と時間を確保する。 ○具体物の提示や実物投影機を活用し、作品を作る工程を視覚的に提示する等、児童に分かりやすく課題を説明する。 ○児童のイメージが広がるような発問を工夫する。 ○新型コロナウイルス感染症の対策をしつつ、児童同士で作品を見合いながら楽しみながら作品作りに取り組めるようにする。
<p>読み解く力の育成</p>	

【授業改善推進プラン 2年 生活】

児童の状況	<ul style="list-style-type: none">○愛情をもって植物を育てることができる子が多い。○観察カードに絵や文章を記入することはできる。○プレゼンテーションが苦手である。○人との関わりを楽しめる子が多いが、上手に手本を見せたり説明したりすることについては苦手である。
指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">○コロナ感染症を危惧した結果、プレゼンテーションの場を設けられない。○コロナ感染症を危惧した結果、十分に人との関わりをもせられない。○異学年児童や地域・外部人事との交流の場が広げられない。
授業改善にむけての具体的方策	<ul style="list-style-type: none">○コロナ感染症に対する適切な対策をしつつ、プレゼンテーションの場を作り、カード以外の表現方法に取り組みさせる。○（できればコロナ感染症が落ち着いている時期に、）異学年交流を含めた交流の場を設定する。○表現方法やプレゼンテーションの方法にICTを利用する。
読み解く力の育成	

【授業改善推進プラン 2年 体育】

児童の状況	<ul style="list-style-type: none">○体を動かすことが好きな児童が多い。○整列が遅く、列が乱れてしまうことが多い。○苦手な運動やできない技にも進んで挑戦しようとする。○どうしたらもっと上手になれるか、みんなで楽しく運動ができるかを考え話し合い、工夫したり教え合ったりなどして児童同士で協力して取り組むことができる。
指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">○休み時間などの制限があり、体を動かす時間が少ない。○運動不足からの基礎体力の低下について、児童の実態把握が不十分である。○新型コロナウイルス感染症の影響により、ペアやグループでの活動に制限があり、児童同士の関わりを十分にもたせることができない。
授業改善にむけての具体的方策	<ul style="list-style-type: none">○活動時間を長く確保するために、準備時間を短くしていく。○ワークシートや掲示物などを活用し、技能の向上につながるようにする。○新型コロナウイルス感染症の対策をしつつ、ペアやグループでの活動を増やし、児童同士で高め合える環境設定を行う。
読み解く力の育成	

【授業改善推進プラン、2年 特別の教科 道徳】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に学習に取り組むことができる。 ○発言によって自分や登場人物の気持ちを学級の友達に伝えることができるものの、考えに深みがでない。 ○道徳教材の内容は理解している。ただ、自分事として振り返り、生活に生かしていこうとする意欲はあるが、継続することができない。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ価値がこれからの実生活でどのように生かされていくのかを多面的に考えたり、自分との関わりで考えたりする工夫ができていない。 ○子どもたちが、互いの考えを深めるための話し合いを工夫が十分ではない。 ○授業の内容を、自分の態度や生活と照らし合わせた振り返りが十分に行われていない。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○書く、発表する以外に動作化や役割演技などを取り入れ表現活動を工夫し、多面的・多角的に物事を考えられるようにする。 ○物事を自分との関わりで考えるために、小グループでの対話やタブレットで友達との意見交流を通して楽しく学習させる。 ○道徳ノートやICTに記入し、5分～10分丁寧に振り返りを行う。その際、子供たちの思考を深めるための板書を工夫する。
<p>読み解く力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教材に書かれた文章や資料から、その場面の状況や登場人物の思いを感じ取らせる。 ○意見の交流を通して、物事を多面的・多角的に考えたり、自分との関わりで考えたりさせる。 ○友達との交流を通して自分の考えを広げたり、深めたりすることでこれからの自分の生活、自分の生き方に生かせるように支援する。